

3/12

クシマザクラを後継木に植え替え

## 大

村公園内の大村神社で、2年前に枯死した県指定天然記念物の「大村神社のクシマザクラ」に代わる、新たな指定木に植え替えました。これにより、これまでどおり文化財の指定は継続されます。

クシマザクラは、オオムラザクラと同様に八重桜の珍しい種類として発見され、1967年に県の指定を受けました。

過去にも2度枯死していることから、今回は日当たりがよい場所に移設。4月にはかわいい花を咲かせ、花見客を喜ばせました。

### 県指定天然記念物「大村神社のクシマザクラ」植え替え



3/21

野岳ため池の工事が完了

## 東

野岳町にある農業用ため池「野岳ため池」の堤体改修工事が完成し、竣工式が現地で行われました。

式には、中村県知事や松本市長をはじめ、地元選出の国会議員や地元住民など約130人が出席し、完成を祝いました。

野岳ため池は、捕鯨で富を得た深澤儀太夫が私財を投じて造った人造湖で、約350年経った今も下流の農地を潤っています。近年、堤の老朽化が進んでいるため、平成20年度から工事に着手していました。

### 野岳ため池堤体工事竣工式



3/24

官民一体となってまちづくりを

## 九

九州新幹線西九州ルートや新大村駅（仮称）の開業に向けて、官民で組織する「大村市新幹線まちづくり推進協議会（仮称）」の設立発起人会を、長崎インターナショナルホテルで開催しました。

これは、7年後に開業する九州新幹線を生かして、官民体となってまちづくりを推進しようとするもので、関係機関15団体の代表などが参加しました。

今後、同協議会の設立総会を開催し、広く市民の皆さんの参加を呼びかけていきます。

### 「大村市新幹線まちづくり推進協議会（仮称）」設立発起人会



3/28

装いも新たに  
グランドオープン

## 建

替工事を実施していたボートレース大村の新スタンドが完成し、オープン記念式典を開催しました。式典には、関係者など約300人が参加し完成を祝い、入場門には一般客が、長い行列で開門を待ちました。

新スタンドは、帆船をイメージした外観で、3階（部7階）建て。収容人数は4,500人で、女性や家族連れのファン層を拡大しようと設計されています。5月にはSGレースも開催。ご家族おそろいでぜひお越しください。

### ボートレース大村新スタンドオープン記念式典



3/29

山間部の狭い道でも  
迅速に出動

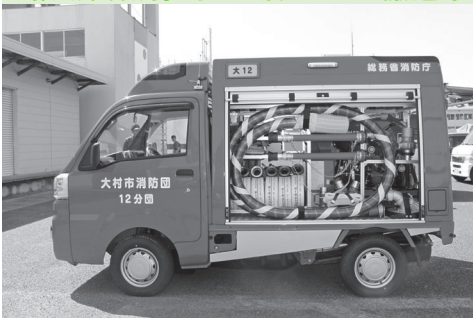
## 総

務省消防庁から、市消防団に対し、救助資機材・小型動力ポンプ搬送車が無償で貸し付けされました。

これは、多良山系の登山者の山岳事故に対応するため、捜索・救助救出訓練を東彼杵町と合同で実施していることが評価されたもので、第12分団の久津分駐所に配備されました。

同所は山間部に位置するため、狭い道でも迅速に現場へ出動できるようになり、倒木の処理や人命救助などへの活用が期待されます。

### 救助資機材・小型動力ポンプ搬送車の配備



大村消防署久原分署開署式



**地** 域防災の拠点として、長崎医療センター内に「大村消防署久原分署」が設置され、開署式が現地で開催されました。式には、松本市市長や宮本諫早市長をはじめ、関係者など約50人が出席して開署を祝いました。久原分署には、消防車・救急車が1台ずつ配備され、24時間体制で業務にあたります。これにより、市南部の消防・救急体制が強化され、更なる安全・安心につながるものと期待しています。

3/30  
市南部の消防・救急体制を強化

高齢者見守りネットワーク活動の推進に向けた包括的連携協定締結式



**地** 域で高齢者の見守り体制を強化するため、セブンイレブンジャパンと包括的連携協定を締結しました。これは、認知症による高齢者の徘徊があった際の情報提供や、配食サービスを通じて安否確認などを行うものです。この日、市内にある12店舗のオーナーらが、認知症サポーターの養成講座も受講しました。締結式では、松本市長と同社北九州ゾーンの森永仁マネージャーが協定書を交わし、相互に連携していくことを確認しました。

3/30  
セブンイレブンが地域の高齢者を見守る

セーフティモデルタウン引継式



**町** 内会が主体となつて、地域の防犯活動を実施するため、松原地区町内会がセーフティモデルタウンの指定を受けました。大村警察署で行われた引継式では、前年度指定を受け活動してきた萱瀬地区町内会から、松原地区町内会への引き継ぎが行われました。この指定は7か所目。今回指定を受けた松原地区町内会は、今後1年間、警察などの助言を受けながら、町内の安全・安心を守るため活動していきます。

4/1  
町内の安全・安心を守るために



東京公演迫る  
「OMURA室内合奏団」



vol.41

「市民の皆さんに生のオーケストラの演奏を聴いてほしい」という私の長年の夢がありました。12年前、大村高校出身で長期に渡り米国でミュージカル女優として活躍された村嶋寿深子氏に、故郷に帰ってシーハットおむら館長へ就任していただくよう懇願しました。そして就任後は、「ふるさとの皆さんに、よりよい生の演奏を聴いてもらいたい」という村嶋館長の燃える情熱で、長崎にゆかりのある演奏家らを集め、弦を中心としたプロの室内オーケストラ「OMURA室内合奏団」が、ここ大村市に誕生しました。団の結成後は、日本屈指の演奏家らを招き、指導・共演を通して、技術と音楽性のレベルアップに日々努めています。また、県内外で広く活動しながら、地域に根ざした音楽活動にも取り組み、「アウトリーチ」という出張演奏で、県内の学校や公民館、市内の小学校を訪問し、間近でアンサンブルに触れてもらっています。ところで、5月27日(水)、結成10周年を記念して、長年の夢であった東京公演が決定しました。演奏会場は、800席を有する、室内オーケストラの演奏にふさわしい欧州の伝統的スタイルで作られた紀尾井ホール(東京都千代田区)です。現在、嶋崎合奏団理事長をはじめ、在京の皆さんも成功に向け、懸命に走り回っています。できますれば、市民の皆さんも東京近郊にお住まいの親族や友人におすすめください。ホールを満席にすることで、OMURA室内合奏団の知名度アップにつながり、力強いものになります。ちなみに、九州でプロオーケストラは、九州交響楽団とOMURA室内合奏団の2つだけしかありません。これからも、文化的財産であり市民の誇りであるOMURA室内合奏団の、ますますの活躍を期待しています。